

現行の補助金制度は、教育的プログラム、人道的プログラムにDDFやWFという補助金として使用。この取り扱いを2012 - 2013年度までで終了。ただしポリオ・プラス・プログラムは継続。

2017年にロータリー財団が100周年を迎えることを踏まえ、ロータリー財団管理委員会は、奉仕の次世代に向けて進むべき構想と計画を「**未来の夢計画**」として目標を定め、段階的に進めていくこととされています。

この段階的補助金制度は、

2010 - 2011年度：ロータリー財団が試験地区に補助金の授与を開始

②2011 - 2012年度：試験地区に引き続き補助金を授与。

財団は、現行のプログラムを段階的に廃止し始める。

③2012 - 2013年度：試験地区に引き続き補助金を授与。

管理委員会は、試験地区のフィードバックを基に、必要に応じて補助金モデルを調整。全地区の資格認定手続きと研修を行う。

④2013 - 2014年度：全世界で完全に2013-2014年度新補助金制度としてスタート。

(2013年7月1日より現制度から新制度に切り替わります。)

2013-2014年度の新補助金制度までに新制度に向けて、ロータリー財団の理解力及び財団力をつけることを念頭に置かなければならないことを地区ロータリー財団委員会及び財団セミナー等の開催の都度、川妻二郎カウンセラーよりお話を頂いております。以上が、3年間で新補助金制度に移行する前の**4つの重要な期間と準備**についてお話ししました。

7. 地区ロータリー財団の組織構造

三角の一番上段が**地区ガバナー**（地区ロータリー財団委員長と全小委員会を指導する）、その次が**地区ロータリー財団委員長**（すべての小委員会の職権上の委員となる）（1名）、**小委員会の委員長** [奨学金、研究グループ交換、補助金、ロータリー平和フェロウシップ、ポリオ・プラス、学友・年次寄付、恒久基金]（8名）、**地区ガバナーエレクト**、**経験・知識のあるその他のロータリアン**となっています。何を言いたいかといいますとその組織構造が理解できていないと自分のポジションを認識し動きを判断することができないと言うことです。

8. クラブ会員のロータリー財団への寄付

財団が捻出する補助金はどのようにして集められているのかというと、三次ロータリークラブの皆さんの会費からロータリー財団への寄付という形でクラブ事務局が必要事項を記載し納付しています。

この送金内容は、**①年次寄付②恒久基金③ポリオ・プラス④補助金提唱者負担分マッチング・グラント、グローバル補助金など⑤その他** となっていますので①～⑤を選択して記載します。それ以外にポール・ハリス・フェロー（PHF）ホール・ハリス・ソサ

エティ（PHS）等についての記載があります。

①「年次寄付」 用途を決めずに寄付し、3年後にその寄付金をロータリー財団プログラムに使用すること。これは地区の運営方針にのっとり地区目標を「**毎年あなたも110ドルを**」として設定されています。寄付ですから110ドル以上でもよいのですが三次クラブは寄付者の個人名と①年次寄付欄へ110ドルと記載して寄付をしています。

②「恒久基金」 元金に手をつけない基金で、投資収益のみを財団プログラムに毎年使用すること。ベネファクターは、この恒久基金に1,000ドル以上寄付するか、遺贈の受取人としてロータリー財団を指定したことを通知した人となっています。ポール・ハリス・フェロー（PHF）等については時間がないので省略。

③「ポリオ・プラス」 用途指定寄付の一つでポリオ・プラスとして指定して寄付。ポリオ・プラス寄付はプールしておき、ポリオ・プラス補助金の要請がある都度使っていきます。

三次クラブではミリオン・ダラーを使って捻出し、クラブとして一人15ドル×43名＝645ドルと記載して寄付をしています。

④・⑤についてはありません。

以上で三次ロータリークラブが皆さんの会費からロータリー財団に対しどのように寄付をされているのかをお話しました。

この寄付方法も地区ロータリー財団委員会の小田大治委員長が今まで年次寄付を個人としてではなくクラブとして一括して納入していたことに気がつかれ、本年より記載方法を変更して年次寄付の110ドル/人を個人名で、また2億ドルチャレンジを15ドル×人数で一括送金することに切り替えられていることを認識しておいてください。

また年次寄付と恒久基金は別々に記載すること、恒久基金を含めて年次寄付として記載したような場合は年次寄付にしか使用できないそうです。

最後にロータリー財団はよく分らないといわれます。これまでは単年度事業として捉え各クラブの委員長さんが対応してこられたのには2つの違いがあったのだと考えます。つまり単年度事業であっても財団のことをよく理解されて動かされたクラブの委員長さんは、前事業に習い積極的に次の事業を考えられ補助金の申請をされて行動されていること、また申請の無いようなクラブは、私の経験を踏まえ「ロータリー財団はよく分らない」ということを理由として消極的な動きしかしていなかったことに起因しているのではないかと思います。

そこで2013-14年度より地区の裁量でプロジェクトができる新地区補助金制度ができますので、今までのようなあり方ではなくクラブ会員全体がロータリー財団についてもっと理解し良く知っておいて欲しいという意味での要請がありますことをお伝えして終わります。

2010年 11月18日(木)

第 18号

本日のプログラム	クラブ協議会
次回例会	11月25日(木) 18:30～ 三次商工会議所
次回プログラム予告	夜間例会

例会記録・・・11月11日

- 点 鐘・・・・・・中川筆之 会長
- ソング・・・・・・「君が代」「我等の生業」

会 長 挨拶 ■中川 筆之 会長



失礼します、一週間のご無沙汰です。立冬が過ぎましてめっきり冷え込んでまいりました。風邪をひかれた人が多いようです。身体をご自愛ください。

さて、日中関係が冷え込む原因となりました中国漁船の日本の領海侵犯とその漁船の巡視船への衝突のビデオが流出して一物議をかもし出しております。NHKのニュースで外務省OBの岡本氏が解説しておられましたが、あのビデオを見る限り中国漁船の意図的な衝突で、しかも日本の国家財産である巡視船へ損害を与えており、日本の法律により処罰しなければならないのに中国の揺さぶりに屈したばかりか、あまつさえ漁船の船長をなんら処罰せず釈放したことは、日本の国家としての主権をなんら主張することなく譲歩したと思われ、へっぴり腰外交と言われても何等弁明できないだろう。と言われてました。もし立場が逆で、日本の漁船が中国の艦船に百にも無いでしょうが衝突したなら、銃撃を受け死傷者が出て中国当局に拿捕されただろう、とも言われてました。敵対的な強硬姿勢を貫け! とまでは申しませんが政権の支持率が急落したのも十分理解できます。皆さんはどのように考えられますか? 本日は以上です。

幹事報告 ■菅原 暢之 幹事

- 例会終了後、定例理事役員会を開催します。
- 11月第4例会の出欠を回覧します。
- G12親睦ゴルフ大会・副会長杯の出欠を回覧します。
- 次週の例会に村竹アシスタントガバナーが訪問され、クラブ協議会が開催されます。理事役員・委員長の方はクラブ概要・活動計画書をお忘れなく。

出席報告 ■灘岡 直隆 会員

10月28日の出席報告					本日(11月11日)の出席状況			
会員数	出席者	Make-up	出席免除者	出席率	会員数	出席者	出席免除者	欠席
42	25	4	5	76.19	42	23	5	14

Make-up 石田会員(瀬戸田)・伊藤(山口)・小田(聡)(青少年交換委員会)・藤谷(因島)

SAA報告 ■属 吉行 SAA

スマイル12,000円

佐藤 匡司	叙勲にて皇居で天皇陛下に御拝謁致しました。
佐々木 智	下関海峡マラソン、今年3回目のフルマラソンを走ってきました。
藤谷 博義	創業月

プログラム

ロータリー財団委員会

■地区R財団委員会小委員会 奨学金担当委員長 児玉常典
11月はロータリー月間です。地区財団の奨学金担当として、RIと切っても切れないメインテーマ「ロータリー財団」について、8つのパートにわけ《ロータリー財団の基本》的なことを、その後、今後のロータリー財団のプログラムがどのように変わるか等についてお話します。

1. 「ロータリー財団とは」

ロータリー財団は、個々での奉仕活動よりも大きな規模の活動を実施する機会をクラブと地区が力を合わせることでクラブや地区に提供することを目的としています。

また、非営利法人であるロータリー財団への寄付金は、慈善的寄付として米国の法律で課税を免除されています。免除の対象とすることは米国およびその他多くの国々で認められています。

ロータリー財団は、国際ロータリーとは異なりますが、国際奉仕という唯一の奉仕部門を持ちその唯一の目的は、国際レベルの人道的、教育的、文化交流プログラムを通じて世界理解と平和を達成するために国際ロータリーへの努力を支援することです。

2. 「ロータリー財団の活動」とは

・世界で最大で最良の国際奨学金プログラムである国際親善奨学金の提供。

・外国での生活と文化を学ぶために、毎年2,000人以上の男女を海外へ派遣する研究グループ交換があります。

3. プログラムと資金の出所等

2010年8月22日(日) 国際ロータリー第2710地区、2010-2011年度「地区指導者教育セミナーで使用されたもの

4. ロータリー財団の提供プログラム(別紙レジメの左側の【現行】を参照してください。)

・**教育的プログラム**(国際親善奨学金、世界平和フェロシップ(国際問題研究のためのロータリー・センター・プログラム)、大学教員のためのロータリー補助金、ロータリー平和および紛争解決研究プログラム)への資金の提供。

人道的プログラム(地区補助金、マッチング・グラント、3-H補助金、ボランティア奉仕活動補助金への資金の提供。)

ポリオ・プラス・プログラム ポリオ撲滅のために大きな進歩を遂げた世界的規模の努力の結集。ロータリー財団は、RIのプログラムの中で、重要な国際奉仕活動において協力する機会をロータリー・クラブと地区に与えている。

5. 「シェア」とは

ロータリー財団の寄付を国際親善奨学金、マッチング・グラント、研究グループ交換などに活用するシステム。

地区財団活動資金(DDF District Designated Fundの略)とシェアはよく同じ意味で使われる。

地区DDFは二つの資金で構成。シェア・システムの下では、各地区から年次プログラム基金への寄付が、ロータリー年度末に二つの資金に分けられ、50%が国際財団活動資金(WF)となり、残りの50%がその地区の地区財団活動資金(DDF)となります。地区がその用途の決定に発言権を持ちます。

国際財団活動資金(WF World Fundの略)とは、年次寄付と恒久基金利息の50%。ロータリー財団管理委員会がその用途の決定をいたします。

ロータリー財団は、DDFとWFなどシェアと言うユニークな資金提供サイクルの下に運営されており、寄付から3年後にその寄付金がプログラム活動のために使用される仕組みとなっています。これらの言葉は、財団ではよく出てくる言葉ですのでその意味と単語を覚えてください。

ちなみに私が担当しています国際親善奨学金は、ロータリー財団最古のプログラムで、1947年に遡る秀逸の伝統あるものです。そして、世界中のロータリアンからの寄付によって毎年、他国で研修する約800~1,000人(日本からは約200人位)の奨学生を支援しています。こうした多額の寄付が、学生たちに投資されており、これは将来を約束された奨学生たちが明日のリーダーとなり地域社会および世界に多大の貢献をするというロータリーの信頼の表れ

です。

ちなみに私が担当しています国際親善奨学金は、ロータリー財団最古のプログラムで、1947年に遡る秀逸の伝統あるものです。そして、世界中のロータリアンからの寄付によって毎年、他国で研修する約800~1,000人(日本からは約200人位)の奨学生を支援しています。こうした多額の寄付が、学生たちに投資されており、これは将来を約束された奨学生たちが明日のリーダーとなり地域社会および世界に多大の貢献をするというロータリーの信頼の表れです。

では1名にどれくらいの資金が提供されているかといえば、

1 学年度国際親善奨学金:ロータリー財団管理委員会指定の教育機関において1学年度(通常9ヶ月間全目録課程)学ぶ正規の学生に与えられます。奨学金は、往復交通費、1ヶ月間の語学集中研修費用(財団指定の場合)、通常課程に必要な授業料、適当な部屋代と食費、教育用備品などを賄うものとして支給されます。

2010-11年度は25,000ドル、2011-12年度は26,000ドル、2012-13年度は27,000ドルになります。

6. ロータリー財団の4つの重要な期間と準備

別紙レジメ記載の【現行】補助金システムから右側の【新】補助金システムに変わります。

① 補助金制度が2010-11年度から開始し、3年間

試行の後、2013—14年度から全世界で実施。

② 準備のための基本的な考え方

i. ロータリー財団への理解度を向上。

ii. 地区の裁量に任せられる部分が半分近くに。責任が重く、管理能力向上の必要性。

iii. グローバル補助金と称して継続的、大型プログラムが可能。種探しと準備に1~2年。

③ 寄付の仕組み等は今のところ変わらない見込み。

④ 管理能力向上のための地区組織の検討

22年11月、未来夢計画準備委員会を立ち上げる予定。現行プログラム及び補助金システムが大幅に変更。現在ノン・パイロット地区ですが、財団に携わる委員長だけに留まらず会員の皆様にも良く理解して頂くことが必要となってきます。

⑤ 「パイロット地区」「ノン・パイロット地区」

の違い。

2013-2014年度新補助金制度への全移行前に試験地区として、パイロット地区を世界で100地区(日本では6地区)選び、それ以外の地区(ノンパイロット地区)に先行して2010-2011年度からの3年間新制度を試行。